

令和7年3月14日

令和6年度 八王子市立城山中学校学校経営報告

八王子市立城山中学校
校長 田野倉 教泰

令和6年度の学校経営について、以下のとおり報告します。

1 学校の教育目標

- 学ぶ・・・主体的に学ぶ生徒
- 鍛える・・・自らを鍛える生徒
- ◎思いやる・・・自己や他を思いやる生徒（重点）

2 基本方針

（1）義務教育修了段階において育成すべき生徒像

地域社会の一員として自己の存在感を実感し、多様性を受け入れながらより良い人間関係を構築して合意形成をとる生徒を育成する。

（2）**学びについて**9年間で育てたい児童・生徒像

学ぶことと将来のつながりに見通しをもって自己の取組課題を認識し、その解決に向けて粘り強く取り組む生徒を育成する。

（3）城山中学校が求める教師像

服務に厳正であることを基盤とし、向上心をもって指導力向上に努め、生徒を大切に育成することができる教師を目指す。

3 教育活動の重点

（1）小中一貫教育

義務教育9年間の認識に基づき、小学校・中学校の教育活動が円滑に進むよう教育課程の編成を進めてきました。

そして、学力向上プロジェクトチーム・出張授業・部活動体験等、学習活動・特別活動・生活指導において小学校との合同活動を進めます。

基本方針（１）義務教育修了段階において育成すべき生徒像、（２）学びについて９年間で育てたい児童・生徒像に基づき、城山小学校と教育課程届の内容・構成において可能な範囲で共有化を進めたことによって、教育活動の一貫性が進んだ。

年３回の小中一貫教育の日における情報交換や合同活動の実施によって、教職員による児童・生徒の実態把握とともに、子ども同士による異年齢交流が進展した。

今年度後期の保護者のアンケートでは肯定的回答が９２．８％であり、前年度比４．８ポイント増加した。

今後は、合同活動の実施によって確認された成果と課題に基づき、より実効性の高い取組になるよう改善を進める。

（２）特別支援教育、いじめ防止、不登校対策

週に１回実施する常設委員会が中心となり、組織的な対応を進めます。

また、外部機関と連携を図る等、個々の状況に応じた対応を進めます。

各委員会に専任のコーディネーターを配置したことで、組織的に個々の状況に応じた対応策を検討することができた。また、必要に応じて外部機関との積極的な連携を図ることができた。

いじめの認知件数は２８件（うち解消１７件）あり、それぞれの状況に応じた対応を進めている。また、組織対応の進展を通して、いわゆる「いじり」と呼ばれていた行為がいじめの前段階ではなく「いじめ」であるという認識を共有することができるようになった。

今年度後期の生徒アンケートでは肯定的回答が９５．４％であり、前年度比３．９ポイント増加した。その中で、「当てはまる」と回答した生徒は８６．３％であり、前年度比９．６％であった。また、保護者アンケートでは肯定的回答が８０．５％であり、前年度比５．１ポイント増加した。このことから、子供や保護者にとって実効性を感じられる対応が進んだと考える。

しかし、特別支援教育については、保護者による肯定的回答が６７．７％、「わからない」という回答が２７．７％あることから、今後は、周知や啓発についての取組を見直す必要があると考える。さらに、ユニバーサルデザインの視点に基づいた教育活動の一層の充実を展開する。

(3) 授業づくり

「授業の構造化」を進めます。これは、①本時のねらいを授業時間中提示して今日のゴールを把握する ②本時の流れを提示して見通しをもつ ③本時のねらいの達成度を確認して出来栄を実感する の3段構成です。

また、学習評価や学力調査の結果に基づき、授業改善を進めます。

なお、ICT機器の活用をととして学習内容の定着に役立てます。

「授業の構造化」は教職員内には定着がみられるが、子どもたちへ視覚的かつ意図的に示すことには課題が残った。また、毎学期、評価・評定から学習状況を検証する等して授業改善を進めてきた。

今年度後期の生徒アンケートでは肯定的回答が96.8%であり、前年度比3.1ポイント増加した。また、保護者アンケートでは肯定的回答が74.8%であり、前年度比11.4ポイント減少した。このことについては、保護者による「わからない」という回答が11.4%から8.1%に減少したこととアンケート全体における肯定的回答率が高いことから、保護者による学習活動への関心度が高まったためと考える。

今後は、従来取り組んできた授業改善の内容やICT機器活用の成果を周知する等をととして、城山中学校の授業づくりに対する理解を進めていく。

(4) 生徒会活動

生徒の自主的・自発的、自治活動に向けて「意図的な指導」を進めます。これは、「何のための活動か」「目的を達成させる内容か」を明確にした上で活動に取り組むことによって、学校生活の改善・向上につなげていきます。

前期の役員会で、生徒会朝礼時における各委員会の発表をスライドで表示するスタイルにした。そして、職員室前廊下の掲示板を生徒会用として、スライドの内容を紙ベース出力して掲示する等、新規の取組を導入した。また、日常的に取り組んでいる委員会活動に対して、丁寧な事前指導をすることによって子ども自身が取組に価値を見出すことができるようになってきた。

これらのことは、「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」の肯定的回答のうち、「当てはまる」との回答が74.4%から78.5%と4.1ポイント増加、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答86.1%から91.3%と5.2ポイント増加していることから類推することができると考える。

引き続き、生徒の自主的・自治的活動に向けた取組水準の向上を図る組織的指導を展開する。